

《履修上の留意事項》遠隔講義のみ実施

《担当者名》田村至

【概要】

この科目では、言語聴覚士による言語聴覚療法の対象である失語症についての基礎知識について学習する。

【学習目標】

一般目標

1. 失語症の研究史、定義、原因疾患、症状、タイプ分類について理解する。
2. 失語症の言語治療における言語聴覚士の役割について理解する。
3. 失語症患者に対して言語聴覚士が行う支援について理解する。

行動目標

1. 失語症の基礎的知識（定義、原因疾患、症状、タイプ分類）を説明できる。
2. 言語聴覚士による失語症の言語治療について説明できる。
3. 言語聴覚士による失語症患者への支援について説明できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	失語症の基礎	1. 失語症の定義、 2. 失語症の原因疾患	田村至
2	失語症の基礎	失語症の症状{言語の4モダリティー（読む聴く話す書く）における失語症の症状}	田村至
3	失語症の基礎	1. 失語の症状{言語の4モダリティー（読む聴く話す書く）における失語症の症状} 2. 純粹型言語障害（純粹失読、失読失書など）	田村至
4	失語症の基礎	失語症のタイプ分類（ボストン学派の古典分類による各失語症タイプの特徴）	田村至
5	失語症の基礎	失語症のタイプ分類（ボストン学派の古典分類による各失語症タイプの特徴）	田村至
6	失語症の基礎	失語症の研究史	田村至
7	失語症の基礎	大脳における失語関連領域を知る。	田村至
8	失語症の基礎	失語症の言語治療における言語聴覚士の役割	田村至

【評価方法】

定期試験100%

【備考】

教科書：藤田郁代 他 編 「標準言語聴覚障害学 失語症学 第2版」 医学書院 2015年

【学習の準備】

シラバスに書かれた講義進行に応じて指定した教科書を事前に読んでおくこと（80分）
講義で配布した資料と教科書で講義内容を復習し、知識を確かなものにする（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。
（DP4）関係職種と連携し、質の高いチーム医療の実践的能力を身につけている。

【実務経験】

田村 至(言語聴覚士)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での臨床経験を活かし、失語症の理論的側面だけでなく、より実践的な患者と言語聴覚士とのかかわりについて講義する。